



# 神谷の正月坂



△「この辺が正月坂だよ」

神谷・増川・江尾などの愛鷹山の裾野には、源頼朝に関する地名がいくつか残っています。

今回は、神谷2丁目の長老後藤宇一さん(87歳)と地元の老人会「楽笑会」の皆さんに教えていただいた地名の話です。

1,192年、源頼朝は鎌倉幕府を開きました。頼朝は、弓術や馬術などの武芸を重んじ、富士山の裾野で巻き狩り(狩場を四方から取り巻き、けものを囲んで捕える)を行いました。

## 正月坂

根方街道の神谷2丁目から3軒ほど登ったところにある地名です。頼朝が巻き狩りにきたとき、ここで正月を過ごしたと言われています。今は山林と茶畑になっています。

## 研石

正月坂を越えて農道をさらに登ったところの地名です。後藤さんが50

歳ごろまでは、道の東側に三角すいの大きな石がありました。頼朝がここを通ったとき、その石で刀を研いだと伝えられています。

## 的場平

正月坂の近くで、ここで弓矢の練習をしたといわれます。

## びんなで石

増川の北に御殿場とあるところがあり、石のそばから清水が湧き出しています。頼朝がこの石に腰をかけて、泉の水でびんのほつれをなでつけたと言われています。



△後藤さん

# 地名の由来

## 勢子辻



勢子辻地区に人が住みついたのは、安政6年(1859年)で、山北村の川村銀平が小屋掛けの茶店を開いたのが初めでした。

ここは、奈良から平安時代の東海道の旅人でにぎわいました。源頼朝が富士の巻き狩りのとき、上井出へ行く道で、巻き狩り勢子をこの付近に集めたので、勢子辻というようになりました。

# 富士のあゆみ

## 善徳寺と三将会盟



△三将会盟の様子

室町時代、今泉には善徳寺と呼ばれる大きな寺がありました。これは、大勲策禪師という名僧を開山とした寺で、今川氏の保護のもと、富士川以東第一の寺でした。

1554年、かねてより上京の機会を探っていた今川義元は、その背後をおびやかす北条と今川に味方する武田との抗争が大きな不安でした。

義元の軍師太原崇安(雪斎)は、武田・北条の抗争をさげ、さらに義元の上京を実現させるため、三国の武将を善徳寺に集め、不戦の約束を実現させ、この地を戦火から救いました。

その後、義元の桶狭間における敗北によって、この約束は一挙にくずれ、武田の駿河進攻となりました。(資料提供:市立博物館)

## こちら編集室

あけましておめでとうございます。トラのパンツといえば強くてたくましいターザン。市民と市政を結ぶ「広報ふじ」は、「虎の威をかる狐」にならぬよう、皆さんの立場からターザンを夢みて今年もがんばります。